



その7

活動データ 第8回

メニュー：ツリーの飾り付け、
いちい大学異世代交流

日程：12月15日 土曜日

場所：中央公民館

参加：16人(4年生～6年生)



巨大なツリーがお目見え

第8回目の教室はクリスマスツリーの飾り付けを行いました。12月の実施メニューとしては恒例で、今年も羽幌ライオンズクラブから公民館に寄贈されたツリー用のアカマツに自然教室のメンバーがクリスマスモードたっぷりの飾り付けを行いました。

ライオンズクラブからの寄贈は今年で10年目を数え、毎年クリスマスシーズンに花を添えてくれます。今回贈られたツリーは高さ約6mで、公民館のロビーの天井に届きそうなくらいのまっすぐに伸びた立派なマツでした。

巨大なツリーの飾り付けは、足場を組み本格的に行います。公民館職員が手際よく足場を組んだ後、子どもたちがイルミネーション、リース、サンタクロース人形や雪に見立てた白い綿など思いおもいの飾りを付けて、1時間ほどで完成させました。高さ6mの巨大なマツは、色とりどりのクリスマスツリーに変身し、最後はライオンズクラブのみなさんと記念撮影をして完成を一緒に喜びました。

このツリーはクリスマス当日の25日まで展示され、公民館を訪れる人々を楽しませてくれました。

リース作りで異世代交流

ツリーの飾り付け後、昼食をはさみ午後からは、いちい大学のみなさんとリース作りで交流を図りました。

核家族の増加によって、おじいちゃん、おばあちゃんと暮らす子どもたちが減少し、違う世代の人たちとふれあう機会が減っていることから、昨年からは異世代交流事業を実施し、今年はクリスマスメニューの第2弾としてリース作りに取り組みました。

新聞紙を材料に手軽で簡単にできるリースを取り上げ、公民館職員が講師になって進められました。いちい大学の学生と子どもたちが4つのグループに分かれ、講師の説明を聞いたあと早速新聞紙でリング状の土台作りにかかりました。高齢者と小学生が協力し合いながら作る様子は、まさにおじいちゃん、おばあちゃんとお孫さんのふれあいのようで、和やかな雰囲気なかで次々と作業が進められました。

グリーン色の布が巻かれ、土台が出来上がったあとは、市販のクリスマス用の飾りを付けて完成となりました。最後にリースを片手に写真撮影。クリスマス一色の楽しい一日でした。



(右)高さが6mにもなるツリーはロビーの天井に届きそう。飾り付けには足場を組みます。(中)完成したリースを手にいちい大学のみなさんと一枚。全員なかなかの出来栄です。(左)ひとつひとつの作業を協力し合いながら進めます。

飾り付け作業が終わり完成したツリーを前にライオンズクラブのみなさんにお礼です

自然教室メモ

ツリー以外でも大活躍

もみの木はマツ科モミ属に区分される針葉樹で、クリスマスツリーの木として有名です。普段の生活の中では馴染みが薄い感じのもみの木ですが、白くて臭いがない材質から、すし桶、おひつ、絵馬、結納台など昔から色々な用途に利用されてきました。

また、湿度を調節する機能を持つことから住宅の内装材としても使われています。空気中の湿度に反応し、細胞が膨張・収縮することによって室内の湿度を一定に保ち、併せて森林浴効果の要因となる有機化合物を放散することから、健康住宅の材料として注目されています。



古くから生活の中に幅広く取り入れられてきたもみの木ですが、日本国内では激減しています。